「自然の中でいっぱい遊びたい」

（4／5　美山山村留学センター入所式）

平成20年度の美山山村留学センター「四季の里」入所式が行われました。旧美山町で平成10年から始まった山村留学は、小学生が1年間親元を離れ、留学センターや里親家庭で生活しながら、地元の知井小学校で学ぶものです。今年度は8人が入所され、遠くは神奈川県からも来られました。式では子どもたちが「勉強と農作業に頑張りたい」「自然の中でいっぱい遊びたい」と新たな生活への思いを発表されました。

▲８人の児童が入所しました

「ボランティアは〝違い〟を大切にする活動」

（3／21　第1回南丹市ボランティア交流会）

▲マジックや朗読など、日ごろの活動を発表されました

南丹市社会福祉協議会ボランティアバンク運営委員会が主催した第1回南丹市ボランティア交流会が市国際交流会館で行われ、およそ140人が参加しました。交流会では運営委員会委員長の田中正子さんが「活動を行っている者同士の交流を深めたい」とあいさつ。その後、旧町ごとに日ごろの活動を発表しました。続いて、華頂短期大学社会福祉学科准教授の名賀亨さんによる講演では「ボランティアは“違い”を大切にする活動。相手との“違い”を認め合うことからはじまる」と話されました。

「ゆずりあい 笑顔があふれる 京の春」

（4／8　春の交通安全運動スタート式）

4月6日から15日までの期間、全国春の交通安全運動が実施されました。7日には市域を管轄する南丹警察署で「春の交通安全運動スタート式」が行われ、自転車の安全利用の促進や同乗幼児のヘルメット着用の徹底、飲酒運転の根絶などの啓発として市全域をパレードしました。また、式では交通安全漫才として日吉町在住の中川巌さんと平川きみさんによる「たこやき」と題した漫才が披露されました。お二人の軽妙な掛け合いに、会場は笑顔があふれていました。

▲交通安全漫才を披露される中川巌さん（左）と平川きみさん（右）

「魅力あふれる『用の美』展示」

（京都伝統工芸職人展「用の美の空間」）

▲若手職人による芸の実演や販売も行われました

京都伝統工芸職人展「用の美の空間」が4月1日から27日まで、美山町島の美山かやぶき美術館で行われ、市内の工芸家や京都伝統工芸大学校で学んだ工芸家など、南丹地域にゆかりのある方々による作品が並びました。展示されたのは、用途を持つからこそ備わっている「用の美」（機能美）のある陶器や竹・木工芸などおよそ30点の作品です。開催期間中の土・日曜日には竹・木工芸の実演もあり、暮らしの中に根付くものづくりの魅力があふれた展示会でした。